



・対応OSはWindows 2000、XP、VISTA
(Windows VISTAはメーカーによって対応できない場合がある。またMacには非対応)
またフラワープリンターのレンタルサービスも行っている。
(レンタルは4日間で、スタッフ派遣料やインクなどの消耗品代が別途必要)

プリントもできる。プロゼーブドフラワーとは生花を特殊加工したもので、ドライフラワーのように寿命が長く保存しやすいので人気が高い。水気や湿気に弱いのがデメリットで印刷には向きとされてはいるが、フラワープリンターはその問題を解消している(印刷との相性が悪いプロゼーブドフラワーもある)。

もし花の仕入れが煩わしいならば、熊神州がプリントに適した生花・プロゼーブドフラワーを用意してくれる。花の品質やサイズ、色などの細かい内容も相談に乗ってくれるので、安心して仕事に専念できるわけだ。

フラワープリンターの大きさは400×290×250mmのコンパクトサイズ。右写真でも分かる通り、ノート型パソコンとマウスが上に乗る程度のスペースなので設置に場所をとらなくて済む。重量も9kgと軽く、持ち運びにも便利。なおフラワープリンターの操作は、パソコンの経験が無くても数時間の練習で使い

こなせるようだ。文字の書き・書きや、画像の回転機能なども付いている。価格は専用ソフト付きで税込52万5000円。設備が高額になりがちなOGBSの中で、この値段は安価と言える。

作業の手順は以下の通り。

- ①専用ソフトに名入れしたいメッセージやイラスト、写真データを読み込む
- ②オリジナルデザインを作ることも可能。テンプレートも用意されているので、デザインが苦手な人はその中から選んでもいい。
- ③名入れする花びらの面に専用コーティング液を塗る(写真1)

こうすることで印字のかすれを抑えて長持ちさせる。コーティング液は特殊な樹脂でできており、花を傷めることはない。印刷面積だけ塗ればいいので一度の使用はごく少量で済む(熊神州では液1本で花300本分としている)。

- ④コーティングを終えた後、花を本体にセットしてプリント(写真2～4)

本体の中央部引き出しには3本の花がセットできる機構になっており、まとめて印刷することができる。プリントにかかる時間は簡単な文字なら約15～20秒で印字できる。花3本同時にプリントしても同じ時間で仕上がる。

……という流れ。

ちなみに使用インクは水性で256色カラーに対応している。ただし白色は再現できない。またインクは市販品(レックスマーカー社のインクカートリッジ)も使える。市販品なら1個あたり3000円程度で買えるので、ランニングコスト

も抑えられるだろう。なお熊神州によれば花1本にかかる印刷コストは約15円だという。

花への名入れを一つの文化に

もしフラワープリンターの導入に不安があるなら、販売するだけの代理店制度「伝心花サービス」に加盟する方法もある。その仕組みは、

- 注文が来たら販売店が専用申込用紙に必要事項を記入し(花の色やメッセージなど)、お客から料金をもらう
- 記入済みの申込用紙を熊神州にFAX
- 申込み内容通りにプリントした花を、熊神州がお客に発送する

……というもの(1本500円から)。これだと花の在庫を持つ必要がないのでリスクがない。また夏季はクール便で花を発送するので品質が悪くなる心配もない。販促がスターやチラシも付いており、アピールに役買ってくれそう。

今後の展望について販売社長は「まだまだこれから」としながらも、確かな手応えを感じている。

「展示会に出展するとお客様からの反響が大きい。喜んでくれる方がほとんどで、改めて花の力の強さに驚かされます。将来、「花にメッセージを入れること」が一つの文化として根付いていけばと思います」。

花への名入れビジネスが新たな加工グッズのムーブメントとなるか——これからの動きに注目したい。

熊神州がお客様に発送する

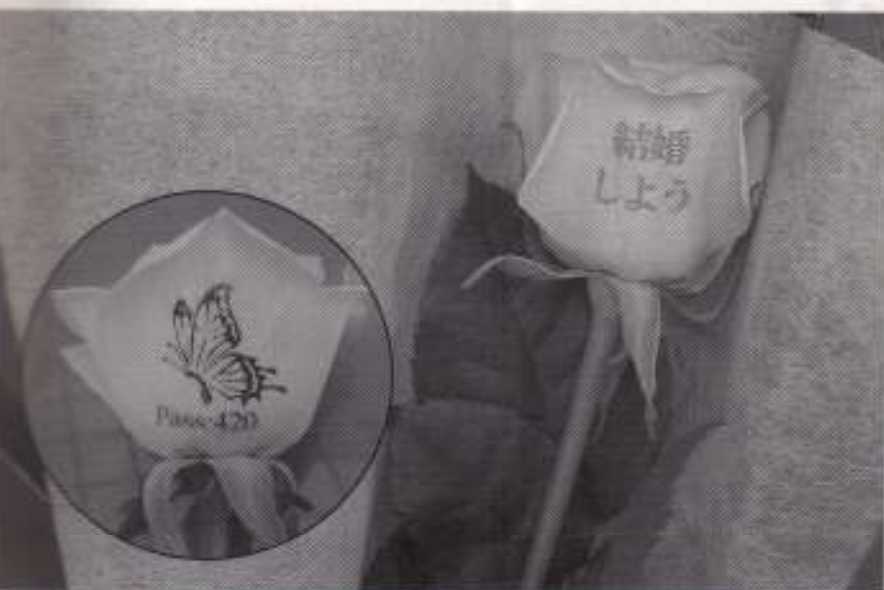
下の写真を見て思わず驚いた。どこにでもある普通の花に、「結婚しよう」のメッセージが施されている。さらに蝶々のイラストがアザインされているものも……。Tシャツプリントや木札ストラップ、メモリアル彫刻など、名人加工は数あれど「文字・イラスト入りの生花」はあまり聞いたことがない。

この名人加工は熊神州（東京都千代田区）の「フラワープリンター」によるもの。薔薇やチューリップなどの生花に文字やイラスト、写真が印刷できるインクジェットプリンターである。

フラワープリンターはもともと中国のメーカーで販売されたもので、同社は日本の総代理店にあたる。

出会いは約2年前。当時貿易会社だった熊神州の飯泉社長は中国・広州の展示会でフラワープリンターを目の当たりにし衝撃を受ける。その瞬間「これは日本でもビジネスになる」と確信したのだという。

「フラワープリンターを見た時、花は販



左)「結婚しよう」の花はピンク色の薔薇。文字は赤。蝶々のイラスト入りの花も薔薇(黄色)。イラストは黒。印刷面積が確保できる花びらであれば、花の種類は問わずプリントできる。

気になるニュースを詳しくレポート

report

1

これが最新OGBS!
花にメッセージが印刷できる!?

OGBSのようなシロップでの導入例はまだないとのことだが、もし扱うようになった場合、様々な売り方が考えられそう。

例えば「母の日に「お母さんありがとう」とプリントした花を贈りませんか?」とお客に提案するのもいい。他にも誕生日、卒業・退職祝い、歓送迎会、お見舞い・退院祝い、クリスマス、ホワイトデー、バレンタイン、結婚記念日……など思いつくだけでもこんなにある。考えて

簡単な文字なら約15秒で完成

フラワープリンターは発売当初、主に生花店で売れていたが、現在はレストランやイベント業者など様々な業界で導入されている。特に結婚式場での利用法はユニークで、薔薇の花に招待客の名前を入れた、席札ならぬ「席番札」サービスを実施。フラワープリンターをうまく活用している。



左)フラワープリンター本体。コンパクトサイズなのに設置場所に困らぬ。

みると、そういったイベント時の花ほど重宝されているものはない。売り方を工夫すれば、季節を問わずアピールできる素材になりそう。

しかし、これまで花とは無縁の小売店にしてみれば、「花の知識がないから選べ方が分からない」とこの足を踏む人もいるはず。生花はどのように選んだらいいのだろうか? 飯泉社長によると、「印刷面が確保できる生花であれば問題なく使用できる」そう。

花プリンター52万円は安い?

プリントに適した生花は、薔薇やチューリップ、カーラなど花びらの面積が大きいものが理想。ただし花びらの色が濃い場合は字が見えにくいことも。また同じ花でも色やサイズにバラつきがあるので、よく吟味して名入れにふさわしい花を選びたい。

生花は既にプリンターが普及している。